

催事開催のご案内

デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）は、デザインを人々の日常生活に採り入れ、より豊かに生きることを提案しています。またデザインやアートの持つ、既成概念にとらわれない自由な視点で、多種多様な人々の交流から生まれるアイデアや工夫により、社会的な問題を解決していく、+クリエイティブという手法を実践するプログラムを開催しています。

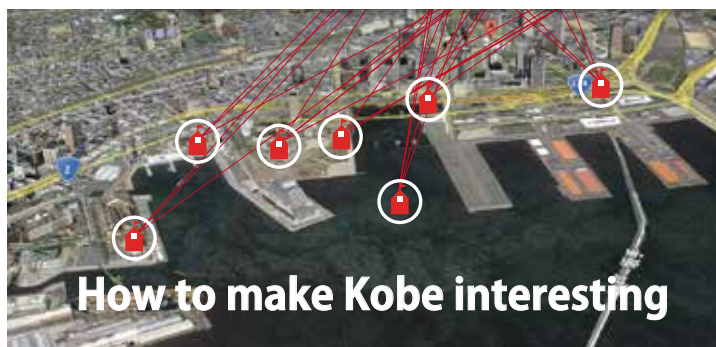
2014年2月開催の催事をご案内いたしますので、取材や掲載のご協力いただけますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

+ クリエイティブレクチャー「神戸を港から面白くする方法」

2014/2/9(日) 17:30-19:30 / 会場 2F ライブラリ

参加無料・要申込み / 定員 50 名（先着順）講師 入江 経一（建築家）

主催 デザイン・クリエイティブセンター神戸協力 神戸芸術工科大学



神戸芸術工科大学は 2013 年 12 月より IAMAS（情報科学芸術大学院大学）と共同で、また企業との連携も視野に入れながら、「神戸ハーバーフロント・プロジェクト」をスタートさせています。12 月のワークショップでは、湾岸エリアをリサーチし、身体エネルギーの活用や自然エネルギーの利用、地域資源の発見などをテーマにアイデアを出し合いました。そして、その成果を KIITO で展示します。

このレクチャーはそうした活動を背景に、「どのようにして神戸を面白くするか」をこれまでのモダンデザイン的な都市づくりの視点や手法とは異なった視点から考えてゆきます。

また、神戸と同様にウォーターフロントをもつ都市であるシドニーの Modern Art University やロンドンの Royal College of Art と、こうした新しい視点で都市の共同研究を進める予定です。

入江 経一（いりえ けいいち）／建築家／情報科学芸術大学院大学教授、2014 年度・神戸芸術工科大学客員教授（就任予定）
 生年／1950 年・東京、学歴／東京芸術大学美術学部建築科卒業（1969）、東京芸術大学 大学院建築科修了（1974）、
 東京工業大学篠原研究室（1976）。学位／芸術学修士 職歴／入江経一建築設計事務所設立（1980）株式会社
 パワーユニットスタジオ設立（1987）

プレスリリース

連携プログラム

「Marry Me! 2050 Discovering the Kobe Harborfront」 成果発表展覧会

2014/2/9(日)-15(土)11:00-19:00 ※月曜休館 2月9日(日) 展覧会初日は、17:00-19:00

会場 2F ギャラリー C / 入場無料

主催 デザイン・クリエイティブセンター神戸、神戸芸術工科大学

共催 情報科学芸術大学院大学



2013 年 10 月から 12 月にわたり開催された神戸芸術工科大学大学院のインタラクシオンデザインプログラム「Marry Me! 2050」と、インタラクシオンデザイン教育研究所のワークショップ「Discovering the Kobe Harborfront」の成果発表展覧会を開催いたします。

※この展覧会は、+クリエイティブレクチャー「神戸を港から面白くする方法」との連携プログラムです。

KIITO アーティスト・イン・レジデンス 2013 濱口竜介 即興演技ワークショップ in Kobe
成果発表：自分が誰なのか言ってごらん？

2014/2/15(土)11:00-20:30

主催 デザイン・クリエイティブセンター神戸



「カメラはレントゲンの眼を持っています。カメラは魂を覗き込んでしまうんです。カメラの前じゃ正体を隠せないんです。そこが映画のすごいところだと思いますね。」(ダグラス・サーク)

「濱口竜介 即興演技ワークショップ in Kobe」は「カメラの前で演じること」をテーマに、2013年9月より5ヶ月間のワークを重ねてきた。ワークショップ終了後、有志による長編映画制作に入る。ただ、いわゆる演技のレッスンはほとんど行なっていない。参加者がしてきたのは、基本的にはただひたすら他人に、そして自分に「聞く」ということだ。

聞くことが何故「カメラの前に立つ」こととつながっていると言えるのか。「本当に何かを聞く」ことは、率直に反応する身体を持つことに他ならない。一方、カメラは常に、レンズの先に立つ者に「お前は誰だ」という問いを突きつける。カメラの前で、自分が何者が隠すことはできない。だとすれば「聞く」ことは、カメラの前に、率直な自分として立つことを何より助けるだろう。

ワークショップ終了に際して行なわれる今回の成果発表では、映画撮影前の最終段階として、長編映画用シナリオ『BRIDES (仮)』の「本読み」及び「キャラクター・インタビュー」を公開する。そのことにより、今後制作する映画を「テキスト」と「演者」の二つの側面から予告する。当日お越しいただく観客の皆さんには、この「書き言葉」と「話し言葉」を往復することで、未来の映画を見出して欲しい。(濱口竜介)

濱口 竜介 (はまぐち りゅうすけ) / 映画監督

1978年、神奈川県生。2008年、東京藝術大学大学院映像研究科の修了製作『PASSION』が国内外の映画祭で高い評価を得る。その後も日韓共同製作『THE DEPTHS』(2010)、東日本大震災の被災者へのインタビューから成る映画『なみのおと』『なみのこえ』、東北地方の民話の記録『うたうひと』(2011～2013 / 共同監督：酒井耕)、4時間を超える長編『親密さ』(2012)を監督。精力的に新作を発表し続けている。

成果発表：自分が誰なのか言ってごらん？プログラム

『BRIDES（仮）』公開本読み

2014/2/15(土) ① 13:00-15:30 ② 18:00-20:30

※①の回はアフタートークあり濱口竜介×芹沢高志（デザイン・クリエイティブセンター神戸センター長）※途中休憩あり／2回とも同内容／終了時間は変更の可能性があります。

会場 3F301 / 参加無料・要申込み / 定員各回 40 名（先着順）

ワークショップ参加者全員で、シナリオ『BRIDES（仮）』の本読みを全編通して行なう。シナリオはワークショップ参加者によるブラッシュアップを経て完成したもので、今後制作される映画を「テキスト」の側面から予告する。台詞・ト書きの読み上げは、テキストに内在する「声」を聞き取るようにして行なわれる。

キャラクター・インタビュー映像展示

2014/2/15(土)11:00-20:30 / 会場 3F303

入場無料・申込み不要 / 入退出自由

ワークショップのカリキュラムにおいて、参加者一人ひとりが自分の役柄を演じながら、互いに聞き合い、即興的に答え合うインタビューを行った際の記録映像を公開する。今後制作する映画を「演者」の側面から予告する。より「話し言葉」に近い、演者たちの姿を映し出すものになる。

未来のかけらラボ vol.3 ～低温スチーミング調理法の可能性～ 2014/2/22(土)14:00-16:30、2/23(日)14:00-15:30 / 会場 3F303

参加 500 円（全通し）・要申込み / 定員 50 名（先着順）

講師 安波 治子（スチーミング調理技術研究会 チーフインストラクター）

モデレーター 芹沢 高志（デザイン・クリエイティブセンター神戸 センター長）

主催 デザイン・クリエイティブセンター神戸



「未来のかけらラボ」とは

現代社会はさまざまな意味で混迷を深めています。未来が見えにくくなっており、そのために、希望を感じにくくなっているとも言えるでしょう。このラボはセンター長・芹沢高志をモデレーターに、身近に散らばる多様な未来のかけら、つまり可能性の芽を拾い集め、草の根的に自分たちの未来を思い描こうとしていく試みです。

温泉地として知られる大分県別府市では、噴出する天然の蒸気を利用して調理をする「地獄蒸し」が盛んです。この蒸すという調理法に科学のメスを入れ、新たな地平を切り拓いたのが、別府出身の蒸気の専門家・平山一政氏考案の「低温スチーミング」という調理法です。食材の酵素が活性化し旨みが増すだけでなく、保存性が高まることが確認され、新聞・テレビでも話題になりました。今回はその「蒸しの聖地」である別府市鉄輪（かんなわ）を拠点にギャラリーやイベントを運営しながら、「低温スチーミング」「50℃洗い」調理法を実践している安波治子さんをお招きします。

安波さんは、明治 32 年に建てられた実家の老舗旅館「富士屋旅館」を壊すことなく、今後 100 年耐久性を持つ建物へと再生工事を施し、次世代へ文化を残すことを決断された方です。また別府固有の美しい景観である、別府石を用いた石垣や石畳の保存にも力をいれ、石積みのワークショップを開催するなどの取り組みもされています。そのような活動についてもお聞きしながら、「低温スチーミング」「50℃」というキーワードがもたらす農業や流通分野における可能性についても考えます。また家庭でも簡単に実践できる低温スチーミング法を習います。

産業革命時に蒸気コンピュータが発明されていたら、どんな世界が生まれていただろうという想定のもとに書かれた『ディファレンス・エンジン』という SF 小説があります。古くさいと思われる伝統的な技術のなかに、実は未来のかけらが数多く散らばっているかもしれません。

プレスリリース

タイムテーブル

2014/2/22 (土) 14:00-15:30 レクチャー

2014/2/22 (土) 15:40-16:30 デモンストレーション、質疑応答

「低温スチーミング」「50℃洗い」について、理論と効果のレクチャー、および家庭でできる調理法の実演・試食を行います。

2014/2/23 (日) 14:00-15:30 トークセッション

モデレーターである芹沢高志とのトークセッションを行います。なぜ低温スチーミングという調理技術に注目するのか、その背景について言及しながら、鉄輪で昔から行われてきた「地獄蒸し」というやり方に対し、現代科学の光を当てることで新しい展開が生まれ、それがもうひとつの未来を生む可能性、いわば「温故知新」の姿勢と実践について話し合います。

安波 治子（やすなみ はるこ）／富士屋 Gallery 一也百／蒸しくらぶ

九州大学農学部卒。食品メーカーの商品開発部に勤務後、実家の明治からの旅館の建物を保存・再生し、「富士屋 Gallery 一也百」として文化的イベントのスペースとする。2007 年より鉄輪温泉の蒸気研究を始め、現在、低温スチーム研究会「蒸しくらぶ」を主宰。セミナーや蒸気活用による商品開発を行う。平山一政氏のスチーミング調理技術研究会チーフインストラクター。

芹沢 高志（せりざわ たかし）／デザイン・クリエイティブセンター神戸 センター長

1951年東京生まれ。89年にP3 art and environmentを開設。99年までは東長寺境内地下の講堂をベースに、その後は場所を特定せずに、さまざまなアート、環境関係のプロジェクトを展開している。帯広競馬場で開かれたとかち国際現代アート展『デメーテル』の総合ディレクター（2002年）、アサヒ・アート・フェスティバル事務局長（2003年～）。横浜トリエンナーレ 2005 キュレーター。別府現代芸術フェスティバル『混浴温泉世界』総合ディレクター（2009年、2012年）。

催事の申込みはウェブサイトにて1/31(金) 11:00 より開始します。

お問い合わせ：デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO) 広報担当

〒651-0082 兵庫県神戸市中央区小野浜町1-4 TEL 078-325-2235 FAX 078-325-2230

開館時間 11:00-19:00 入館料無料 休館日 月曜日 info@kiito.jp <http://kiito.jp/>